わくわくワーク さわやかさん

田澤 しいねさん

信頼される看護師へ奮闘

きっかけは、東北地方を中心に2万人近くの死者・行方不明者を出した東日本大震災だった。

2011年（平成23年）3月11日。通っていた中学校の卒業式の日でもあった。田澤しいねさんも卒業証書を受け取り、4月からの高校生活に胸を躍らせていた時だった。式が終わり、友人と遊んでいた午後2時46分、揺れを感じた。インターネットやテレビを通じて、甚大な被害が発生しているのを目の当たりにした。

医療機関も被災し、看護師不足も重なって十分な治療を受けられない負傷者が、多くいるのを知った。被災地から遠く離れた室蘭で、何もできない自分自身も歯がゆかった。「看護師が足りないなら、私がなればいい」。決意を秘めて、医療従事者への道へと進んだ。

現在は日勤がメイン。担当する部屋の見回り、入浴介助、投薬の記録付けなどさまざま。「学校で習ってはいるけれど、実際に働いてみて初めて分かる事が多い。基本に忠実。毎日が勉強です」と笑顔を見せる。患者さんや家族から信頼される看護師になるべく、日々奮闘中だ。「ありがとう」と声を掛けられるのが、何よりの励みだ。

中学時代はスポーツ系の部活に励み、高校時代はアルバイトをこなした。休日はタイミングが合えば、友人と出掛ける行動派。自宅から40分ほどかかる通勤にも慣れてきた。それでも「まだできない事が多い。一つ一つ先輩に聞きながら、社会人として責任を果たしていきたい」。意気込みは、誰よりも大きい。

（石川昌希）

真剣な表情で打ち合わせに臨む田澤さん。医療従事者として勉強の日々だ

たざわ・しいね　室蘭・東翔高校から市立室蘭看護専門学院へと進学。卒業後の今年4月から登別・三愛病院で勤務。5階病棟で現在は日勤で患者をサポートしている。室蘭市出身。21歳。